一泉

発行所
〒921
金沢市泉野出町３丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内
一泉同窓会
電話(0762) 42－0211
1991.10.5発行

60代 vs 10代　21世紀を語り合う

昭和12年(1937)、一中が本多町から富樫へ移転した。翌年春、新校舎へ最初に入学したのが、私たち一中50期生である。昭和17年(1942)、５年の時に創立50年をむかえた。太平洋戦争の真只中自ずから戦時色の濃い記念行事であった。

60歳の停年も過ぎた。母校の創立100周年(1993年）は、私たちの卒業50周年にもあたる。

後輩である泉丘生と是非一度話をしてみたい。と学校へお願いし、去る（1991年）３月７日泉丘高校に於いてこの会をもつことができた。

正村教頭、中島、長谷、梅田、米田先生と１・２年生27名。一泉編集室２名の参加を得た。

50期から、関東・浅井敏郎、市野孫之丞、関西・吉岡外美雄、地元・玉田進、新田史郎、畠一平、藤浦鋭夫、勝田博、西坂弥三郎、得能与三郎の10名が出席した。文責は得能にある。(得能氏から頂いた原稿に編集上若干手を加えさせていただいたことをお断わりしたい。)

テーマ１　「戦争と平和」

浅井　太平洋戦争を身近に感じて生きぬいてきた一人として、戦争の思い出を語り伝えたい。なぜ太平洋戦争を始めたか。という講演も聞いた。開戦当初は、真珠湾（今年は、真珠湾から50年）の成果で私たちも希望を持ったが、戦局は好転しなかった。昭和20年（1950）８月15日終戦。戦争に負けるべきじゃないと痛感した。しかし、もし戦争に勝っていたら、政治を牛耳っていた軍部が力を得て、今のような民主的状態に到達しなかったと思う。敗戦によって初めて日本人は目が覚めたのだ。湾岸戦争のサダム・フセインの行動は、太平洋戦争が始まったときの日本によく似ている。私どもは、平和憲法に基づき湾岸戦争に参加しなかった。日本政府の対応は、自主的ではなく、決

断が遅れた。90億ドルの金を出せといわれたのです。皆さんは、湾岸戦争と政府の対応について、どのように考えていますか。

新田　開戦直前、学校に陸軍の将校が配属され、軍事教錬が正課。まさに軍国主義教育の中での学園生活であった。軍部は、満州へ活路を見出そうと中国大陸への侵略行為を激化させたため、イラクのように日本は経済封鎖されて物資が入ってこなかった。戦争を始めたのは、一部の軍部です。当時アメリカではすでに車社会、日本は自転車。この点一つをとっても、世界を相手に、無謀な戦争をしたのだ。結果として負けたが、戦勝国であったら、今の日本は無かったと思う。

生徒１　湾岸戦争で、日本は自分の意志で早い時期に、お金だけは出すが、平和憲法維持のため後は出来ないと言ってしまえば国際的にも良かったのではないか。

生徒２　太平洋戦争と今のイラクが似ているとのこと、歴史から見てイラク・クエート問題は、どうしたら解決するのか。

生徒３　第二次世界大戦へ入る前に、アメリカの３要求を日本が受け入れなかった。今の湾岸戦争でもイラクは、アメリカの撤退命令を受け入れなかった。もっと話し合いをして、紛争は解決されないのか。

生徒４　湾岸戦争を起こしたのは、アメリカだ。最新のハイテク兵器を試してみたかったのか、と

いう見解については？

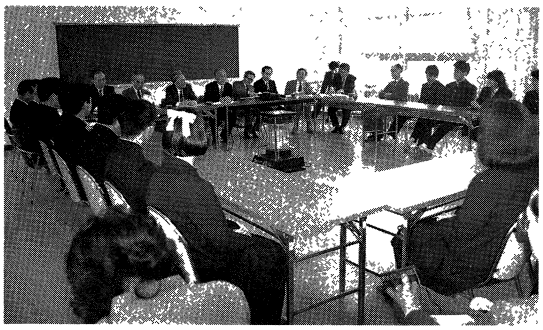
市野　戦争は人類発生以来の未解決問題。どの様に乗り越えて行くかは、皆で考えねばならない。（後輩のかずかずの質問に対して活発な論議が交わされたが、紙幅の都合で省略する。）

テーマ2　「企業から見た望ましい青年像」

勝田　私は小松製作所に40年程勤務。大半は海外の事務所ですごした。海外体験から〝積極的にチャレンジする姿勢〟の大切さを知った。昭和39年初めてインドへ行った。先ず日本との違いを感じたのは、アポイントメント。日本では、何時頃と約束するが、インドでは、何時。総ての面に於いて約束を大事に守る。

インドの、第2外国語は英語。非国際的な戦時下に育ったため、英会話はあまり自信がない。インドの中学の先生に週に2時間「不思議の国のアリス」「宝島」「風と共に去りぬ」等の小説をテキストにして、英語を教えてもらった。文法の勉強よりも小説は実に会話の役にたった。

浅井　私なりに青年像を考えてみた。〝自分で考え自分の言葉で話す〟と言うことが一番大切だと思う。様々な価値観・人生観を持ったいろいろな人との出会い、触れ合いの中で自分を発展させていって欲しい。今一つは、〝国際化された人〟。相手（国）の風俗・習慣を理解でき、しかも、自分の考えを主張出来る人だと思う。



西欧人はキリスト教文化、中東人はイスラム文化、そして日本は仏教文化の中で生きてきた。異教徒に対し、「キリストは罵倒し、マホメットは打擲し、釈迦は微笑む」と言った人がある。私は日本人の底に流れる仏教文化の心、それは素晴らしいものと思う。

世の中の動きに関心を持ち、動きを報ずる新聞・テレビの解説を見聞きし、それを自分がどう受けとめ、理解し、そしてどのように対処、行動するかを考えて頂ければ、21世紀の担い手としてその大役を果たすことも難しくはないと思う。

生徒5　企業の求めに応じて生きるのではなく、自分の生きたいように生きていけば良いと思うが。

勝田　好きなように生きていっても、学校・グループの倫理、取り決めというものがある。それに反した場合は、生きていけない。良い意味の自分中心は、それもまた良いが、基本的な道徳とか約束とかルールには、従わねばならない。

藤浦　私は、金沢美術工芸大学の工業デザインにおります。もうそろそろ停年ですが（笑）。「大学選びを、自分でやりなさい」と言いたい。外から見てわからないことが、多いからです。例えば美大には、美術と工業デザインが一緒にありますが、工業デザインの学生の就職先は、自動車・電機関係の企業が目立ちます。しかし、美術の方は、とてもそういう企業には入っていけない。

玉田　損得を基準にしてものを考えるのは、まだ早いと思う。敗戦で損をしたと思ったかもしれないが、戦後の日本は良くなった。損得はよくわからないのだから、それよりも自分の本質を見極めて進んだほうがいい。現在は良くなくても、20年30年経てば良くなるかもしれない。

私は、一中から海軍兵学校（海兵）へ行き、京大の農学部を卒業したが、当時は、全く就職がな

かった。しかし今は、農学部は、引く手あまたです。

戦時中は、敵国語ということで、英語教育は廃止されていました。音階も〝ドレミファソラシド〟ではなく〝はにほへといろは〟。野球もストライク、ボールは駄目。その中で、海兵だけは、英語教育を続けていました。ジェントルマンの教養としての本質論から英語を廃止しなかった。という考えと、いま一つは、日本の敗戦を予見していて、軍需工場での勤労奉仕ばかりで、殆ど勉強をしていない（勉強させてもらえない）生徒に比べて、海兵の生徒に英語を教えておけば、進学に有利になる。という損得勘定説もありました。いずれにしても、目先の損得ではなく、物事の本質に基づいた行動をして欲しいと思います。

テーマ3　「一中スピリット」

西坂　あの当時に学んだ者として、〝世のため人のために尽くす〟。つまり、自分だけをよくするというのではなしに、世の中の人のためデカイことをして、それが自分のためにもなるという気持ちが一中精神ではないか、と感じとっていた。

浅井　一中スピリットという精神的なものが泉丘高校に継承されているかどうか。

生徒6　継承されていると言えるかどうか分からないが、周りを見ていると、他の学校に比べて、〝味がある〟という感じの人が多い。どこか〝一味違う〟というような。

浅井　対外試合にいったりすると、一中スピリットを発揮して堂々と戦っている。とよくいったものですが。

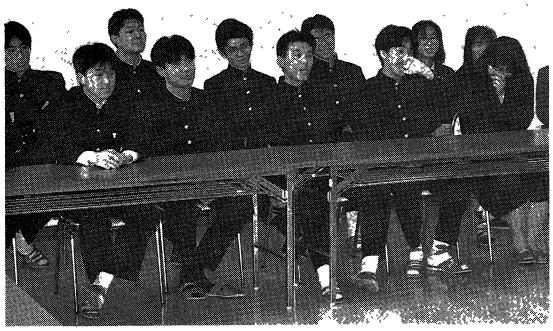
吉岡　甲子園へ是非来て下さい。待っています。

畠　われわれの先輩は「ビィ　ナンバーワンNo.1たれ」と言ったのですね。私たちは、負けない精神、負けじ魂というもので、一中スピリットを表現していた。

玉田　一中精神といっても、具体的な現れは5分前の精神だと思う。会合も5分前に全員集まって号令一下ビシッとなる。これ海軍の精神でして。泉丘精神も、具体的に5分前を守って欲しい。

正村　生徒がすべて5分前の精神になったら、生徒課はいらなくなる。是非そうなって欲しい。(笑)

中島　その生徒課の中島です。本校の生徒は実に主体性があり、自主精神旺盛ですね。われわれにいろいろ守るから、これとこれをさせてくれ。などと言って来る。つい先だっても、生徒自らゴミの問題に取り組み、自主的に〝校内美化法〟を作ってくれてホッとしています。



勝田　確かに校内は、きれいですね。

中島　伝統は伝統として守りつつも、それを革新していこうという積極性は十分あります。

浅井　今日は、私たちと50歳ほども年の差のある泉丘生の生活、考え方の一端を知りたいと思ってやって来ました。私たちの話ばかりが先行した観がありますが、いつか、50期生が何かあんなことを言っていたと思い出して下さい。楽しい2時間をもつことが出来ました。

一中から泉丘へと名前は変わりましたけれど、先輩・後輩肩をくんで、100周年を迎えましょう。どうもありがとうございました。

総合建設業
日本海建設株式会社
建設大臣許可　特1031号
代表取締役社長　小　柳　正　明
代表取締役副社長　小　柳　　章
本　社　金沢市神田1－3－10
電話(0762)代表(43)－3131
FAX (0762)　(44)－1599

手取川生コン株式会社
日本工業規格表示許可工場（第467064号）
代表取締役社長　小　柳　　章
本　社　石川県能美郡川北町字橋
電話(0762)代表(77)－1234番

同窓生の集い

【一中三三会（大正15年卒業）第19回大会】

若葉萌える爽やかな5月15日、新装成った湯涌秀峰閣に集う者14名、うち女性4名を除けば会員僅かに10名。発足当時の50名を思えば、うたた今昔の感に堪えない。

遠く北海道旭川からの米林君、信州の小出君、関東からの高田、村上の両君に加えて地元勢は僅々6名。

総会は物故者を悼んで黙禱を捧げた後、幹事の会務、会計、近況報告と進んで祝宴に移る。

お互い八十路をはるかに超えて酒量も余り進まず、例年の謡曲、歌、手品さては校歌などもなく只々懐旧談に花を咲かせるのみ。

翌日は宿を後にして先ず本多町母校跡地を訪ね、卒業50年記念に植樹した「うばめがし」をバックに記念撮影し、次に在校中毎年4月30日に参拝した卯辰山中腹の招魂社（現在の出羽町護国神社に移転）跡地を車窓から眺めて頂上望湖台に立ってしばし感慨に耽る。

更に車を進めて金沢港を経て旧大野川のボート艇庫跡を偲び、次いで金石海岸、日和山下の学生相撲大会跡地に向う。大野から金石までの海岸沿いの新道は半分以上高い防潮フェンスが建てられて海が眺められなかったのが残念だった。日和山下の昔の砂浜が海の浸蝕で全然無くなっていると聞いていたのに、行って見てビックリ。道路脇のフェンスの外側には昔以上に広い砂浜が立派に存在していたのだ。金石港に長い突堤が造られた関係だろう。いずれにしても砂浜が復元したことは喜ばしい限りである。毎年5月末の相撲大会の当日には全校生徒が金石の名刹本竜寺の境内に集合して選手を先頭に校歌を高唱して相撲場に繰りこんだことを懐かしく思い出した。

金石を出て畝田、中橋などの地名以外、殆んど昔の面影をとどめない金石街道を通り、整備された駅西地区を見学して香林坊へ戻って、東急金茶寮で昼食を共にして午後2時半再会を約して解散した。

〈参加者〉　村上外雄　高田小市夫妻　小出武　米林栄　和田光夫妻　井口政雄夫妻　岡田一男　辻義雄　村上進　藤田誠一夫妻

（二日目昼食会のみ出席者）伊藤進　宇都宮亮一

（藤田誠一記）

【一中35期（昭和3年卒業）60回目の同窓会】

昭和3年の春、本多の森の金沢一中を巣立った自分らは、その会を「三五会」と名づけて親睦を深めてきた。開校以来35回目の卒業生ということで……。

若い頃は年1回同窓会を開いていたが、老境に入るとともに誰言うとなしに「年1回ではアイソムない」と毎月1回集まることにした。今から5年前のことだ。

それもその都度、日時会場を知らす労を省き、又だんだんに物忘れがひどくなることを考え、毎月15日（これも3、5、15に因んで）正午から旧柿木畠のあまつぼで寄っている。

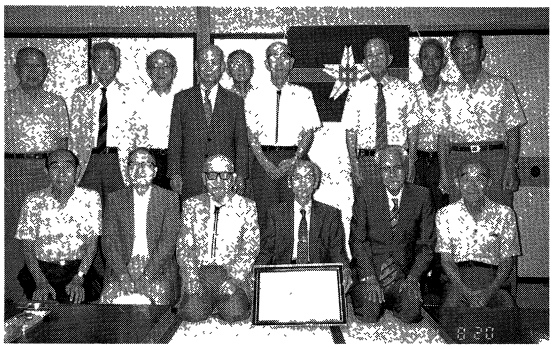
この8月がちょうど60回目になるので、ここで一辺区切りをつけ、記念式としゃれ込むことにし

監査法人 トーマツ

●本部・東京事務所
〒108 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル
TEL(03)3457-7321(大代表)
FAX(03)3457-1694
●金沢連絡事務所
〒920 金沢市駅西本町1-14-29 サン金沢ビル
TEL(0762)22-1275　FAX(0762)63-8580

会長・包括代表社員
公認会計士　川北　博

Member DRT International　Deloitte Ross Tohmatsu



た。当日はいつもの月と同じく正午に開会。お互いの健康を祝福して乾杯した後、食堂主人の雨坪各男氏に感謝状を贈った。今までの月例会はあらかじめ人数が分らず、20名を越える月があるかと思うと10名を割る月もあったりする不確定の出席人数にも拘わらず、快く世話して貰った労をねぎらった。従業員の人達に金一封を、又会員の40回以上の出席優良者にも記念品を贈った。

これから後、一泉同窓会が100周年記念式をあげる平成5年までは、一応この毎月の同窓会を続けようと、80歳を過ぎた老人ばかりが意気込みだけは若い者に負けぬ力みぶりだった。

当日出席者は14名、現在生きている会員50名、物故会員115名の現状です。

〈出席者〉　南部貞一　篠原一恭　松村博　桜井喜文　内田喨太　金岩明　野村忠　大滝武雄　浅地忠　泉友雄　作本秀雄　小坂音次　結城与久　大森玄衆　（大森玄衆記）

【一中39期（昭和7年卒業）地元例会】

春うららを告げる兼六園の桜は少し早かった4月7日、県議会選挙の投票を終え、地元学友14名が郵便貯金会館に集る。久しぶりの顔を見て、お互いに元気で何よりと一期一会の喜びをひしひしと感ずる。レギュラーメンバー3人も入院中、その他病臥養生中の学友もあること、只管に回癒を祈るのみ。明日は我が身かもしれないとお互いに励ます声で、これからの余生を自愛のもと送りたいと念ずるのみである。喜寿を過ぎた年になると何だかこれまでよく元気で来られたと波乱の過去を回顧しながら、いやいや傘寿まで米寿までと次の目標にむかい進もうと祈念する。

明後年の一泉100周年記念には元気で出席したい。又、明年は我々39期の卒業60周年のこと、全国大会を盛大にやりたいと語り合い、青春の桜章健児時代の話題で賑わううち、再会を期して楽しい一時を過ごした。

〈出席者〉　張江啓　吉田克己　村田尚一　長沼久喜　室賀喬　三須外男　吉岡秀雄　川崎芳雄　西田外喜雄　高村伊作　国見弘臣　塩田和一郎　福田外喜二　山瀬芳男　（山瀬芳男記）

【一中46期（昭和14年卒業）クラス会総会】

平成3年度のクラス会総会は、「古稀」と「厳霜年報発刊」（※別記）を祝うこととして、6月23日、湯涌温泉の秀峰閣で行われた。

自適の生活に入った、と卒業以来はじめて出席してくれた尾本康次郎君（八王子在住）、福島から巻山裕夫君、東京から大西正治・西田勝次・村井又兵衛・山本周三の諸君、大阪から新宅健雄・細川熙君という面々と地元勢30人、計38名参集。この総会がまさか最後となろうとは夢にも思わなかった青梅洪治君（8月24日死去）の司会で開かれ、内田一会長の人間味溢れる挨拶に感動の諸兄、全く、クラス会は良いな……!!愉しかったな……!!来年は又元気で逢おうな……!!

厳霜年報、良く出来た、よう頑張ってくれた、死ぬまで続けてくれよ……!!

そんな声の溢れた総会でした。（寺内良雄記）

【一中47期（昭和15年卒業）十五桜会総会】

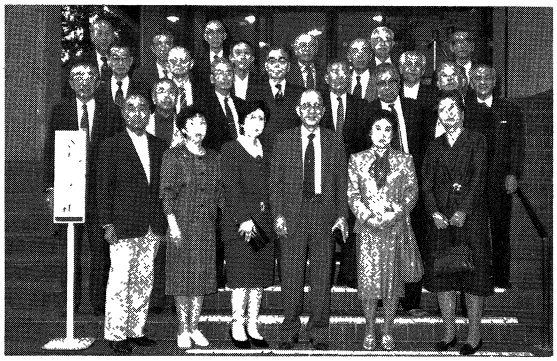
4月16日、新緑の箱根で平成3年度の総会を開きました。集まる者、夫人同伴を含め28名、来年

総合建設業
岳邦建設株式会社
代表取締役　橋　喬
（〒921）金沢市西泉1丁目5番地
電話（0762）41—1115番(代)

は古稀を迎えますが皆様元気一杯で箱根アカデミーハウスでの一夜を楽しみました。

〈出席者（○印は夫人同伴）〉　飯田久　大蔵吉夫　大橋和義　木村博　木村和義　小鍛治敏雄　○篠田修　太島金治　寺本志朗　○中川智雄　○中島章　中村達　縄野茂信　西島誠一　新田正之　○浜屋芳次　深見信一　福岡二郎　本田尹夫　三須徹　森沢正夫　山口尚三　中川政義　中野喜代二

（中野喜代二記）



【一中56期・泉丘2期同窓会総会】

一中56期・泉丘2期生は、平成3年度の同窓会総会を去る8月13日、例年通り鍔甚にて開催した。関東、関西、中京はじめ、遠く九州博多から駆けつけた粕谷君など遠来の懐かしい級友を交え、本年は45名が集い、大いに懇親の実をあげた。

我々の期は、戦後の度重なる学制改革のあおりを食って、離合集散を繰り返させられた。昭和19年に一中に入学した者が、卒業時は24年一中卒業の者。学区制によってそれぞれ分けられて25年に泉丘、二水、菫台、桜丘、鶴来、松任、金大付属の卒業証書を貰った者とまちまちである。25年に泉丘の卒業証書を貰った者も、23年迄の経歴は一中、二中、三中、金中、石川師範、一高女、二高女等多彩で、24年も一高、二高、三高等いろんな経歴を持った者の寄せ集めである。卒業後の同窓会で初めて知り合った人も多い。しかし、同期生としての意識もこの会を通して芽生え、例年賑やかな楽しい会になっている。　（普神貴行記）

【泉丘25期（昭和48年卒業）合同同窓会】

去る8月13日、金沢ニューグランドホテル金扇の間で、我が金沢泉丘高校第25期卒業生の同窓会は、司会者多田拓也君のオープニング宣言によって華々しく幕を上げた。

卒業以来初めて、満を持して開かれた学年同窓会に、総勢154人の同窓生が集まり、恩師の方々も26人のご出席を賜り、大盛会となった（これ程の先生方が出席された会も珍しいそうで、先生方の同窓会でもあったとのお礼状も戴いた）。授業で漢文のご教授を賜った高島誠一先生には、恩師を代

表して、ユーモアに富んだご挨拶を戴いたり、スライドで懐かしい文化祭・修学旅行等の写真を見て昔話に花を咲かせたり、元応援団長・島野君の充分現役に通用するエールに胸を熱くしたり、同窓生の神谷君（やちや酒造）ご恵贈の樽酒の鏡開きがあったりで、頓知の良い多田君の司会進行に会は大賑わい。3時間のプログラムはあっと言う間に過ぎてしまった。最後に5年後に再度同窓会を開くことを誓って会は幕を閉じた。名残りを惜しむ同窓生たちは長蛇の列を作し2次会へと繰り出し、夜中の3時頃まで宴は続いた模様である。

世話人一同、多数ご参加戴いた同窓生・恩師の方々にただただ感謝する次第である。（中野素記）

救急・労災指定

白山病院

院長　飯森又郎　副院長　加納昭彦

脳神経外科・整形外科・胃腸科・外科・内科

野々市町太平寺4—45☎48—2151㈹

【泉泳会（水泳部）例会】

8月17日、第8回泉泳会総会が石川厚生年金会館で国体選手激励会を兼ねて挙行された。

同会は泉丘高水泳部と一中水泳部が60数年の歴史の重さと深さを充分に嚙みしめた会で現在会員数311名をほこる会です。過去国体選手は25名輩出している伝統ある運動部で、当日は一中41期の張江武会長以下61名の参加に加え、正村教頭、国体選手の上田・小泉嬢の出席があり、会長より「国体では頑張って下さい」と挨拶した後、両選手より「昨年より良い成績で入賞を目指したい」と力強い抱負を聞かされ、泉泳会史上初めてのシンクロ選手の健闘を応援しました。

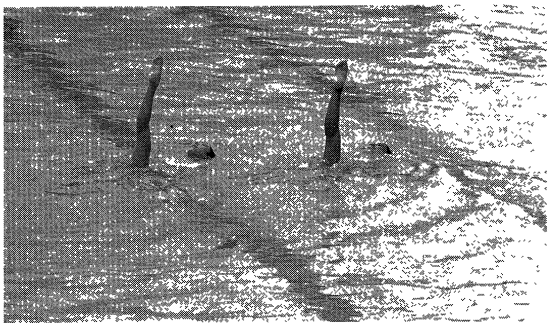
この後、泉丘10期の蔵清隆君を新常任委員長に選出し、100年祭を10期の諸君を中心に運営する事を確認し、盛会裡に幕を閉じました。

（一中56期　中上正記）

同級生の声援をうけて6位入賞

9月11日、石川国体水泳競技のシンクロに、石川県代表として出場した泉丘2年の小泉輝子・上田千穂子さんのペアは、オリジナル曲「武田信玄」のメロディーに合わせ伸び伸びとした演技を披露し、見事6位入賞を果たした。

泉丘では当日、実力テスト実施予定であったが、同級生の応援を優先させ、テストを延期して、2年生全員がスタンドで声援を送った。



カレンダーの10月9日(水)に◎を！

いらっし　みまっし　よるまっし

'91関東一泉同窓会のご案内

関東一泉同窓会会長　浦　茂

夏の名残りとはいえ、吹く風に秋の香りが感じられます。本年は、一泉同窓会本部のご協力により、関東地区会員が4,600名（明治45年卒・一中19期～平成2年卒・泉丘42期）リストアップされました。このすべての皆様にご案内申し上げ、金沢からも多数の来賓をお迎えして、先輩、後輩、同輩との語らいのひとときを大いに楽しんでいただきたいと存じます。“いらっし　みまっし　よるまっし”万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますよう、心よりお待ち致しております。

日時●平成3年10月9日(水) 午後6時～8時30分
受付開始　午後5時30分
総会並びに懇親会　懇親会ではエアロビクスダンスのデモンストレーションと福引きも行います。

会場●グランドヒル市ケ谷・新館3F「瑠璃の間」
TEL.03－3268－0111
（会場のご案内は往信面下段をご参照ください）

会費●男性 10,000円　女性 9,000円

✍9月20日までに、必ずご返信ください。

★幹事期（泉丘12期）の努力がみのり、約400名の出席が見込まれた。予定会場では手狭となり、急遽ホテル・ニューオータニへ変更した。

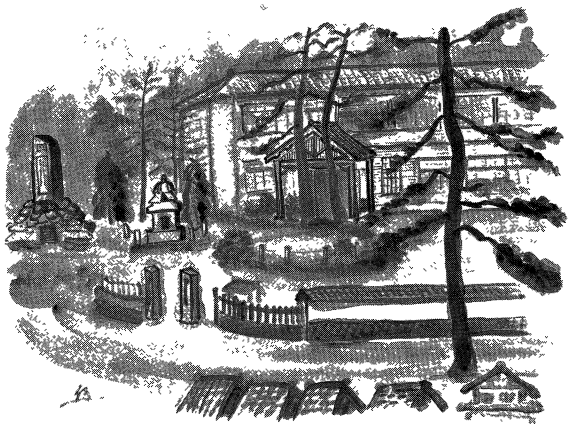
鋼材　中川忠商店

金沢市二口町ニの93－1
TEL　63－2521㈹

我が一中時代の思い出

回顧・本多町界隈（その1）

一中44期（昭和12年卒業）藤木弥三郎



笠島伍朗（一中37期）

本多町校舎

『金沢一中・泉丘高校七十年史』によれば、下本多町に母校の新校舎が完成して、最初の卒業生が送り出されたのは明治31年（1898）4月22日。5期生38名である。卒業式を兼ねて落成式が盛大に行われたという。私たち44期生160余名が、この校舎最後の卒業生として巣立ったのが、昭和12年（1937）3月。この間40回の卒業式が挙行された。校舎のたたずまいは、竣工当初と殆ど変わりがなかったようだが、変化といえば、角力場の南にある2面のテニスコートは、大正14年（1925）になくなった寄宿舎の跡にできたものらしい。

『櫻章校跡地』

私たちが入学した昭和7年の夏休み中の登校日に伊藤允美校長が、「ソノナンダー、プールを造って……」と話された時は、既に計画は実行段階まで来ていたようで、日ならずして工事開始。翌年初秋にプール開きが行われた。他校には未だプールは無く、四高や市内の中学校の水泳部員がよく練習に来ていた。

数年前、中村記念美術館へ行った時、あの一中のプールが浅く狭いものになっていた。聞けば子どもの水死事故があってこのようになったとか。私たちには、思い出深い歴史の碑であるが、人命にはかえられない。

先日、美術館の帰り道、急な石段を下りた。聊か足元にとまどいを感じたが、その昔、本多の下屋敷への路であったかと思えば致し方ない。降り立った所に加賀八家屋敷跡を示す立派な掲示が建っていた。「プールが無い」。見渡せば周辺は見事に整備されていた。

一息付いて、石碑に目を走らせた。創立80周年（1973）を記念して建てられた『櫻章校跡地』（宮太郎前同窓会長揮毫）と刻された石碑である。雑草に埋もれているではないか。「同期生全国大会記念植樹―われわれの縁（えにし）　爰（ここ）に始まる―」（一中41期・昭和9年卒業）と銘して植えられた「桜」の木には、蔦が絡まっている。「うばめがし」（一中33期・大正15年卒業が卒業50年記念植樹）も伸び放題。目を覆いたくなった。気を取り直して石碑に近づこうとしたが、そこへの路は無い。仕方なく竹垣を跨ぎ、植木の間を摺り抜けて足を運んだ。

「石碑」も「桜」も「うばめがし」も、この本多町公園の景観から全く疎外されている。淋しさが込み上げた。一中のプールなどは単なる懐古趣味かもしれない。しかし、明治・大正・昭和と40年間にわたって、5,000有余名に及ぶ櫻章健児を輩出した『櫻章校跡地』ではないか。「この碑を蔑ろにして文教・風致地区は成り立たない」と思うのは、私一人であろうか。

（編集室で加筆したことをお断りします。）

〝心の情報時代〟に好まれ、愛され、信じられる、食事づくりに、精進しています。
―産業給食―
エム・コック・サービス株式会社
代表取締役　南　秀男（名簿委員長）
本社　〒921 金沢市神田2丁目11番19号　TEL（0762）47―1313（代表）

委員会だより

☆名薄委員会からお願いします

名薄委員会が発足して早くも3年になります。一中8,500名、泉丘20,000名（通信制を含む）。この全卒業生を対象に100周年記念名簿の編纂に努力しています。

一中・泉丘の各期の委員や、広く各方面にお願いして資料を集め、かなり、いろんな角度から調査してきました。しかし残念ながら、未だ消息や所在の掴めていない不詳者が、一中535名、泉丘760名、通信制56名。合計1,351名に上っています。可能な限り、同窓生の確認を急ぎたいと思います。

別表（11—14頁）に不詳者名を一覧表にしました。どのような些細な情報でも構いません。万一お亡くなりの時は、その事だけでも結構です。お報せ下さい。

☆記念誌委員会

昨年11月から本年4月にかけて6回の座談会を行いました。出席者の思い出は、募るばかり。いろいろ多彩なお話を聞く機会に恵まれ、喜んでいますが、いま、その編集に悩まされています。

回顧録も各期1名お願いし、ほとんどの方から原稿が寄せられました。思い出の写真をお貸しください。「要返却」とあるものは、お返しします。

前篇（通史・学校教育史）の構成も、ほぼまとまりました。一中時代は『金沢一中・泉丘高校七十年史』、泉丘時代と通信制については、泉丘の先生が分担執筆されます。資料の発掘は続けていますのでご貸与下さい。

☆記念展覧会委員会

100周年記念の基調テーマ「宇宙をめざせ　新しい世代のエネルギーに点火を」。このテーマを基に、100年の回顧と21世紀への展望を一堂に照覧できる空間をかもしだすことが、当委員会の課題です。単なる懐古や夢物語に終わらない構想を練っています。

記念祭——100周年にむけて——

今年も記念祭前日の9月2日に一泉行列（2回目）が開催されました。生徒会会長で応援団団長としても活躍している村田崇君（2年）の言葉（旧一中唯一のなごりである栂の木のこと、行列の意図等）、校歌、ファンファーレの後、約120名で旧校地跡から新校地まで4.5kmを行進しました。今年はOBの方々の参加も計画していましたが、計画期間も短く、残念ながら御案内できませんでした。その分寂しい行列になりましたが、100周年にむけて少しずつ充実するのでは、と思っています。

写真提供：北陸中日新聞

そして、3日9時よりもう1つ新しい企画が行われました。例年この時間帯にはOBの方を講師に招いて記念講演を行っていたのですが、今年は100周年記念フォーラムの成功にむけてOB、教諭、生徒をまじえたパネリストを迎え、「学校5日制」についてパネルディスカッションを行いました。パネリストも一般生徒も積極的に発言し、盛り上がったものとなりました。

米田雅人（泉丘32期、泉丘高校教諭）

～資料としても保存価値のある名簿づくりに精進しています～

一泉創立100周年記念　名簿編集委員会

委員長	南　秀男（一中41期）	委員	西村祐吉（泉丘3期）
副委員長	吉竹毎謳（一中54期）	〃	中川恒雄（泉丘18期）
〃	福田太睦（泉丘8期）	〃	中西一夫（泉丘18期）
〃	木村　登（通信8期）	学校	能沢正夫（泉丘13期）
委員	平石英雄（一中41期）	〃	寺西弘忠（泉丘15期）
〃	中橋寿雄（一中55期）	〃	藤田耕造（泉丘28期）

事務局　〒920　金沢市下堤町1番地　北國銀行気付　TEL（0762）63—1111

一泉同窓会常任委員会開催

9月6日（金）午後4時から泉丘高校2階大会議室に於いて常任委員会が開催された。うだるような残暑にも拘らず約80名の出席を得た。

⊙澁谷同窓会長あいさつ

まだまだ先と考えていた創立100周年も2年後。今一つ100周年に向けての盛り上がりが欠けている雰囲気もあるが、頑張りましょう。みなさまのご協力をお願いします。

⊙船登泉丘校長あいさつ

創立記念祭は9月2日～5日に行われた。2日に、昨年に引続き2回目の一泉行列（一中の松の木・郷友会館前～片町～有松～学校と、一中が本多町から富樫へ移転した際に通ったコースを行列)。同窓会の参加も期待したい。3日には、100周年記念フォーラムへの試行として、「学校週5日制」をテーマにパネルディスカッション（パネリスト教諭・生徒・OB）を実施した。

⊙一泉同窓会総会の開催要項の説明

総会並びに懇親会は、例年通り10月15日（火）の創立記念日に開催。泉丘10期が主幹事となり、11・19・20・21の5期が会の運営を担当する。会場は全日空ホテル。少なくとも400名ほどの参加を望みたいが、石川国体開催期間中と重なるため懸念される。万障繰り合わせ、誘いあっての出席を要請した。

⊙同窓会活動報告と決算報告の承認

⊙100周年記念事業実行委員会の現況報告

◇記念事業は、1億5,000万円集まるとして計画を推進していきたい。

◇各委員会が活動を開始し、構想を練っている。9月末までに、各委員会から一応の事業計画と予算計上を提出してもらい、総務委員会等と検討・討議のうえ、12月末までに、事業計画大綱を決定したい。

◇泉丘高校の先生にも、各委員会に所属してもらい協力を頂いている。

最後に、一中41期の牧沢善二氏から、本多町公園の「櫻章校跡地」の石碑周辺に雑草が生い茂り、見苦しいので除草の手配をして欲しい、との要望があり、澁谷会長がこれを了承して5時半に閉会した。

―100周年・募金状況―
◇いっそうのご協力を◇

100周年記念事業の募金状況を、前号（18号）に引続き報告します。

第2回の今回は'91年9月25日までに、実行委員会事務局の口座に振込まれた金額です。

○印は、すでに募金目標額を達成された期ですが、一中の各期が非常に高くなっており、これも偏に先輩各位の母校の発展を願い、大切にされるお心の賜物と思われます。大口募金は別口として計上していきます。

なお、泉丘各期の計上が全体に少ないのは、未だ各期でプールして実績向上を目指しているとのことです。

また、通信制の募金も目標を達成しています。同窓生全員が参加結束して、母校の100周年記念事業を成功させましょう。

さらに一層のご協力をお願い申し上げます。

各期の募金額（実績）と目標達成率

'91年9月25日現在（単位1,000円）

卒業期	募金額	目標達成率	卒業期	募金額	目標達成率	卒業期	募金額	目標達成率
一中～30	215	(%)	一高			30		
			泉丘	1,570	89.2	31		
31	115	95.8	2			32	365	25.7
○32	1,180	786.6	3	2,020	63.5	33	245	17.0
○33	450	281 2	4	1,000	20.9	34	5	
34	110	52.3	5			35	346	21.6
○35	300	200.0	6			36		
○36	285	158.3	7			37		
○37	217	120.5	8			38	300	36.5
○38	305	190 6	9	1,020	16.4	39	327	36.3
○39	530	100.0	10	1,580	26.6	40	340	34.6
40	555	84.0	11			41	395	44.3
○41	957	147.2	12			42	603	67.7
○42	875	125.0	13			○通信	2,200	110.0
43	300	53.5	14					
○44	862	119.7	15			合計	38,284	
○45	735	100.6	16	20				
46	140	16.6	17	1,810	31.8			
47	707	87.2	18	2,500	44.3			
48	630	75.9	19					
○49	1,190	120.2	20					
50	1,460	64.0	21	1,235	34.9			
51			22	1,000	31.5			
52	1,010	40.8	23					
53	1,490	62.0	24					
54			25	895	29.7			
55	1,630	51.5	26					
56			27	800	28.1			
57	960	30.6	28					
58			29	500	17.8			

一泉同窓生不詳者一覧

——ご連絡をお待ちします——

一　中

18期　木下順次　武村由蔵　長曽我部松城　升崎外茂生　松村孝　三成昱　宮川清　安井真一　19期　北川世之一　瀬川勇吉　野尻(庄司)謙二郎　三成敏　向田清三　森田商一　安川観三　吉田泰　21期　沢田(成瀬)隆吉　西田清勝　林(宮本)衛　三宅勇　22期　藤井栄吉　由長成一　吉田友直　23期　伊藤成朋　高橋清　中山(藤沢)均　松枝一男　松島義尚　水上秀雄　宮永外世治　宮野径之　村上隆徳　柳橋与作　山田辰次　24期　大村俊一　岡村保　河合万里　木谷長信　佐々木虎雄　信濃(浅野)義二　寺島毅　野崎長二郎　26期　岩田亥之朔　牛島忠次　大塚優　清田滋彦　釘谷(本郷)健次　黒田巌　小林由雄　土谷(志村)外代治　牧野他家次　三木佑彦　森田外雄　27期　小川言五　太田良吉　大森茂　小堀外二　酒谷一郎　島田仙太郎　谷実　戸部義祐　轟毅男　中山於登男　橋本優　松島(酒井)省三　松田偕　八幡賀久　山田市平　吉浦俊武　28期　荒川勇　大窪充　鎌田政安　清水静豊　清久夫　戸田正文　表田亮之助　藤村健　松田義嗣　29期　石塚有吉　押野茂之　北村樹三　小橋征三　越村敏夫　坪野憲一　中泉献　仁保捨三　桧物与四松　逸見顕善　村西清秋　森田義三郎　山崎忠人　吉田明　30期　稲村清蔵　雄谷規矩雄　大井辰夫　金内寿三　高橋正雄　林武　林信一　久村五郎　藤井正次　水瀬武男　森村(北川)辰夫　山田武　山森周吉　吉井三郎　31期　川岸(赤池)政治　出射至人　大笹政基　笠間重信　小森貫　坂井三郎右衛門　杉本桂　馬場(田原)五郎　塚本信　恒川寿雄　西川(中野)貞次　本郷盛三　本谷猛　32期　荒木武二　有沢(高岡)幸治　植村龍　加藤清雄　加藤重雄　越田徳三　塚本宣司(弘之)　福田(池田)元治　松本(西田)正文　宮尾貞雄　吉井良雄　吉田伍郎　吉田昌弘　33期　泉喜三次　金田秀次　駒形広吉　佐藤精雄　志谷信義　庄田作栄　末岡謙二　高田誠　外山重周　中谷謹吾　広岡郁　穂積茂生　宮本秀一　森信男　諸田清秀　34期　有馬正雄　井上謙次　石山融　上田俊雄　上野菊雄　遠藤馨　大桑準一　鍛治国次　亀田直康　小堀友次　坂井四郎左衛門　山岸(信濃)博　島崎範栄　島崎政男　出村(田中)得二　田辺吉栄　宮(田村)吉雄　田村光一　高瀬小三郎　高橋強　戸田忠則　能村甫　藤井(松本)勇　松島良　南清一　南正一　室谷元平　安江一男　山内通正(巌)　山下清　吉本良久　35期　石塚俊治　幸坂広治　高橋龍夫　橋(紙谷)平太郎　36期　大平恒　開発(竹俣)久吾　木村乏三　黒田篤　小山博　小山文雄　桜井省三　清水定明　島田武男　鈴木正次　田中清次　高桑秀明　中田孝治　中村昇太郎　中村太郎　古田保二　福田与俊　俣野季夫　山本猪一　吉野修　石橋良一　37期　伊藤政一　石田芳雄　小野時久　葛葉丑信　志鷹慶太郎　島田春三　杉野(寺井)清作　田中正　西村福太郎　森重雄　吉田作次郎　和田禎之　38期　大伴茂　山原他正　吉村一郎　吉崎門順　39期　上田吉郎　内野敏文　近藤豊作　清水外吉　高橋繁夫　中村正勇　初島正夫　松川実　水野俊次　宮下俊男　40期　小菅泰雄　志賀周可　中康　中谷登　中本和中　平田平三郎　本田一郎　朝生良雄　石井坦　大浦十久二　小倉佐吉　河原辰成　河村正義　蔡秋梧　金野弘　多久和新弥　中出章　中西甚太郎　服部正雄　林敬邦　北條泰麿　松田弥津美　前田広　三浦吉男　美野礼久　森岡良喜　安原典次　山崎政夫　横田一麿　由雄太郎　林讃奎　若林外茂　43期　池田市衛　44期　宇野寛　氏家吉弥　島宗義　内保直二　牧野本　水口広次　村上弘　44期　吉本俊雄　45期　金多信夫　多田武夫　谷本碩郎　中川宗政　森正雄　46期　菊地薫　田辺了　吉田堯　47期　麻生茂雄　岡野琢也　坂本好安　座主勇　末村栄一　橋本平　荒井(田中)建治　村沢真弓　吉田暁　48期　朝倉基一　綾城麟太郎　狩野修　木村明　小山俊一　清水幸二　番久雄　藤岡惇　堀磐根　本道清　前田晋　村重繁雄　横井博　沢田嘉

市 49期 沢井良平 高橋矩夫 藤田助夫 50期 川村敏次 鈴木陽 田中長 中村久雪 野村正 橋本忠文 広岡保光 朴逸相 本道達雄 山本陽 51期 大野外雄 斉藤達 椎名道雄 豊田(高木)正男 高村晴介 松田育郎 宮腰幸作 坂田(湯沢)宏 和気潔 清水譲介 52期 今村政泰 寛陽 沢井徳三郎 出村朗 長江精一 西沢敏 西村章 松原賢佶 南正一 森(清水)照夫 山本昇 吉田(国本)嘉博 53期 朝倉健次 沖浦六郎 小川政和 坂田稔 鈴木充 曽場亮好 玉川正治 牧野勇 柳橋健輔 横井達夫 沢崎辰雄 54期 池田省三 井口喜芳 今村政泰 北山一正 高木喬彦 西野泰 広沢雄一郎 前田昭三 森章 森山弘 西井淳 堀恒之 55期 新津保正也 鍛治春夫 桜井兵一郎 鈴木慎二 手塚清 中道福一郎 原洋 細川宏 宮地富彦 宮前忠 米林久一 56期 荒田健造 越後純一 太田博 川岸幸二 喜多亮輔 小坂了司 小林五郎 許斐羊一郎 佐藤光二 清水美一 新谷圭政 杉本三郎 千代裕彦 武島恒 手塚盛二 中島(窪田)外喜夫 中野達也 中村精二 花井良夫 藤井清士 前田三郎 増山堯 南喬二 山田武司 山田易宏 吉田昭磨 高塚貞夫 57期 赤羽龍男 岡田恂 加藤星司 上出直義 北村好文 北形喜吉 小網忠夫 小林信善 小間(角野)健二 神保靖 鈴木康紀 瀬尾吉彦 田中彬 高野誠一 武井一雄 武部隆佐 鶴見侃治 中川栄三 布川一郎 福田哲男 二口和夫 堀俊允 松井孝介 三輪誠 宮尾充 森孝夫 横田真三 吉井謙二 若月督司 山田威 岩城宏之 歌代一朗 白橋(莇)純治 戸田喬 宮野喜一 石過(山口)和夫 小林凱 清水浩 飯田正直 58期 井上修 大崎三郎 岡野武史 長田耕也 岡本貞夫 岸田寿一 北田勇 喜多光児 児玉四郎 新保昂而 杉浦三郎 関晃一 竹下長一郎 土井章 中西巌 福田正敏 藤田晃 宮島長勝 向義則 山川至 石谷哲 植田博之 神戸重盛 加茂仁 北村安男 小林佐一 高崎祐一 高橋理 高森隆 手取義之 苗代穣 野村文保 浜野正明 松川互一 無量江繁 森茂雄 安川洋平 山崎春彦 薮野秀一 徳井修 板村忠世 江戸満 尾川英昭 押野重孝 岡野一彦 種田導晴 河崎信雄 木村明 窪田英憲 越村久夫 五島孝 沢辺安治 平良純 中川洋二 能村厚行 広瀬孝臣 松原伸夫 三上次男 村信夫 山崎時夫 池上辰夫 市村勲 井上義夫 岩崎吉宏 栄隅真人司 大久保勝夫 小川久弥 川上潔 北口善信 倉重任蔵 黒川洋 小竹和人 正見康夫 千田太郎 竹田好夫 得田勇 中村謙一 西尾修 浜本勲 開祥一郎 広瀬光久 藤垣久郎 宮下貞夫 村田譲四郎 堀功衛 板村孝也 佐藤秀四郎 高木勝昭 高多明 中村富一郎 三木甫 西正夫 宮地敏次 竹森大八 小風知貞 中川吉之助 蓮井俊 梅木守 越後正隆

泉 丘

1期 阿良田哲四郎 野島泰治 2期 池田穣 越田正美 坂元淑郎 三野修 篠原豪 中島清弥 桝本光雄 松浦重誠 山本久枝 小坂了司 山田易宏 竹田熹一 3期 加藤(岡本)品子 永森千恵子 武部隆佐 戸田喬 藤井清士 森田隆 松尾竺宗 鶴見侃治 西村彰 西田(松本)道子 宮崎(桝本)周子 歌代一朗 4期 坂井(稲荷)節子 岸田寿一 菅原慧 高橋弘 氷見晶一 山森礼子 相馬進 岡田郁夫 徳田隆俊 斉藤公 中橋良治 加藤(岡本)品子 浜野正明 森茂雄 山田尚義 高畑修一 沢田憲三 水原(森)和子 上道(橋田)茂子 松田陽子 5期 福田洋子 鬼頭淑子 舛田久美夫 山森正利 尾山次男 中村昇 宮谷明 西岡義宜 上坂堅久 上原一之 金谷光烈 広瀬忠 西脇(荒井)静子 塩岡昭則 山田(山田)文子 畝村(吉田)奈美江 6期 久保隆 藤田俊雄 笹木富子 鈴木啓史 高西健夫 橋本(宮谷)洋子 出口国昭 布留川裕作 宮地哲朗 本原達三 木下年男(登信夫) 税所雄 西井賢一 永宮(村田)洋子 川上妙子 松井笙子 西岡(泉)由美子 7期 島倉義彦 笹川亥 吉岡静夫 加藤実 谷泰明 宮崎康憲 荒川茂 佐藤三夫 早瀬一郎 宮腰修身 高畠(高畑)京子 中村(中村)寿美江 二宮(二宮)万里子 正田(正田)佳子 立花武男 松原正雄 宮崎敦彦 和田克己 林外美雄 本田和代 松井清司 渡辺静市 8期 高木伸一郎 高田治雄 近藤外喜雄 伊達(吉村)外治 西村剋彦 北川光雄 北村寛迪 野村一 柚木克義 西野満知子 塩川淑子 伊藤義範 岡田典芳 塩谷栄一

9期 北脩二 坂田悟 樋口正 黒川幸子 石井絢子 岡田茂富 中橋研二 上出義広 高橋貞夫 紺谷外喜雄 山本(成出)ユリ子 谷口晟 山辺外志朗 浅村(山本)節子 森本(関口)都子 戸田和代 北村(山崎)靖子 高橋(宮下)敦子 田中茂 中川良一 山田正一 10期 近江正行 河内純二 大谷(古河)宏一郎 山森研一 増田繁樹 塚野三郎 滝内敏昭 水橋精一 佐々木寛恭 中田晃 横山晃 松崎満雄 多田俊雄 11期 河野久美子 高田昭雄 大田実 島田興一 岩崎皓三 中山勝弘 深沢(中川)悠紀子 岡田(青木)真知子 松山由希子 土田美紀子 中島正二 松井誓一郎 大石光彦 福本潔 松井比登志 三木洋夫 12期 高畠澄子 榛沢暁子 石川裕久 斉藤璋 西谷元 石田勝彦 清水外喜雄 屋敷泰山 福島(小倉)峰子 13期 広根悠 嶋田陸奥子 杉本(高田)昭子 酒井(長沢)照枝 坂井靖 中西憲子 谷井(能登)一子 松平義弘 沢井(橋本)益美 木村東正 山田(室谷)博子 岩住正昭 石浦彰一 小倉武彦 松本繁夫 平良明 野口修 舘正康 中村克之 小原泰治 葛原卓爾 西田寛吉 山本峰雄 西村一郎 藤井英彦 山田侑克 14期 越昭夫 広瀬和行 星野良武 菅謙治 曽我信行 諸江隆志 菊田智 立川爽 三原春枝 大久保(桃井)直邦 中嶋武尚 佐久間秀樹 岩沢隆 片山光弘 柏原(紺谷)和夫 谷正明 谷村浩 額田豪郎 三田村宏 15期 吉村勉 森川美智子 山田豈夫 勝田喜久雄 高島浩 中川秀人 中越進 平野俊介 伊集院摂都子 東沢隆一郎 小森(泉)邦昭 菊田智 福島昭一 吉岡克真 和田洋三 星川信勝 泉康雄 高桑久青 中野昭夫 本多保夫 中村剛 木谷茂之 車俊明 中島芳春 中田正順 前田英吉 山川行雄 名倉俊治 山崎東邦 柚木俊徳 16期 早川敦之 松沢伸子 浦野睦美 小野雄太郎 小林力 塚崎剛嗣 松田幸彦 広田正克 山上(重信)肇 高桑守 林康 中林洋 本間桂子 松原正宇 松本哲 浅田澔 坂井浩 吉井秀伝志 辰村共治 17期 馬瀬典彦 杉浦信男 関守 中田亜州生 松本修 宮島博 工藤幸男 浜本康昌 福島憲治 大黒雄二郎 南学 渡辺達 池中猛 今村宏 日根節夫 山口研一 吉田寛 神谷康夫 吉田弘明 黒田隼 中戸晃次 沼田憲 18期 山下和男 19期 河南直樹 渡部善一 金丸英次 喜多幸男 菅野悦次 林和男 宮下一寿 井上登 小林俊人 阿部摂子 岡山喜昭 小柳(北出)陽子 山本俊夫 山口譲 垣内俊二 谷口英一 奥康秀 小島康男 早川達夫 前川徹 20期 瀬川俊夫 山田耕一 宮本陽徳 佐久間仁 野口彰 21期 楠慶裕 本間正俊 坪田紳志 平木栄治 吉田隆 小泉幸生 徳満祥三 中村健 中村義治 清水寛 平野彰 中村敏朗 山本博久 橘真琴 22期 卜部英克 久保壮一郎 清水昭子 高田勝 辻倫弘 茶谷景介 奥村(中村)純子 西村愛子 白沢洋 中村哲 酒井斎寧 前多厚 佐々木克紀 田中宣光 青山卓 野田講平 藤沢好孝 新村昭夫 中村仁 浜村浩司 23期 表信子 竹村義和 森村憲一 山田寿一 吉田昭夫 中村実 中越和子 藤田恵子 川戸保 立沢龍次 服部憲幸 宮村栄二郎 村上修 末光敬安 寺崎政敏 宮本顕司 米村光文 24期 南出康弘 天野重樹 石井薫 上田邦彦 川上美智子 北出(清水)真誠 辻弘輝 小原浩史 久保雅一 沢江淳子 尾崎正孝 金森敬 林三千夫 南誠 宗形立夫 北原亨 久保隆司 竹中尚樹 土屋尚樹 村崎俊一 角田(山口)ふさ子 山本勝 垣内弘幸 25期 日向信介 吉村啓子 八日市屋隆 脇田浩二 葛西弘樹 古市朝生 稲本裕子 辰巳賢司 寺井高史 百成公美 南文人 山城芳正 山本和典 椎野孝雄 中村宏久 26期 浅子仁博 湯浅(山本)順子 大村潤子 金森恵美子 河内美津子 坂野靖幸 前田幸夫 川瀬真人 西尾昇 飯尾(加藤)むつ子 27期 須原洋次 雄城泰子 河上和宏 酒井純一 長谷川夏代 水島典子 村田(中西)登志夫 津沢(寺西)順子 石須善郎 表智彦 平昭彦 原文子 笠井美奈子 向井義明 野村晃夫 広岡東一 28期 豊島正徳 長沢洋 平崎太喜宏 岡田佳鶴子 河上昌則 木下譲 高嶋亨 北山泰英 山田久美子 吉田徹 市川裕之 伊藤正樹 可児貴志子 八尾真司 酒井博子 竹村哲 富永園子 福田正裕 増田和則 森俊也 小川一高 木村孝 島田鉄也 29期 藤沢(黒川)智子 日高幹生 山内俊宏 保蔵(示村)雅紀 松村正英 水谷善弘 30期 横尾政明 大洞尊則 田中巧 池上健 筧敬彦 能登弘春 池上浩 藤原正樹 平屋浩一 駒秀樹 斉藤泰 三宅浩 山本雅巳 31期 又葉智恵美 浅尾俊一 大谷義行 田中清司 玉岡宏教 大橋(古松)由美 市村仁志 木沢利昭 田中徹治 中西秀

則　西岡毅浩　大野亨　酒井正史　木越力　木村潤一　松原隆夫　由雄顕一　内山賢治　米川正夫
32期　西村義智　安藤誠康　小林茂雄　田中幹雄　松野隆則　近藤泉　藤田ひろみ　梶井克規　平野光彦　北山雅博　山下茂一　中川享子　松下誠司　東(森崎)千栄　小林敏郎　前川徹　多賀明彦　中島昭彦　33期　沖野幸雄　奥村一史　川崎幹雄　今野貴晴　仕平和也　土田雅彦　寺岡護　徳野泰成　三浦卓也　宮前一朗　板谷幹子　室谷尚子　矢木万紀子　上田領　梶原芳弘　加藤覚徳　寺本茂生　守田諭史　佐藤澄子　谷本里美　大坪尚典　高村英俊　中尾幸広　藤井正行　守岡克郎　徳田清則　笛田雅彦　本江泰彦　宮崎誠　山内伊知郎　橋本逸郎　小西正美　34期　島田真由巳　高田弘美　高尾宏毅　中居間孝之　萩泰典　清水利基　高橋渉　目沢裕二　池田晴子　速見園子　小山英一　酒井邦博　田畑健司　辻幹人　冨原寿男　中村辰八　中谷直樹　上田祥子　森あゆみ　栂坂英樹　広田武志　田畑秀樹　中島政宏　姫崎光昭　松本尚　山下智　若月寿賢　的埜美保　池哲広　岩下雅一　黒田直樹　塗谷達　森谷正之　笹村良恵　三宅薫　尾蔵靖英　庄村伸行　堂上真樹　山際忠彦　井出久史　北雄介　小高英彦　寺島一志　林晃夫　浅川竜一郎　35期　木村美紀　小沢達也　笠間正純　田中誠一　大熊和子　金山陽子　勘間洋子　畠里恵子　石垣昌子　松岡陽子　水谷隆太郎　越島靖子　新谷ゆり　治田珠美　山村秀美　佐藤俊典　品川和弘　杉下真　田中光洋　福島信太郎　入沢洋一　岩尾秀美　中村国義　久保みずき　川嶋勝巳　島崎正之　下郷拓　西沢礼子　鈴木竜太　竹橋徹　森口和彦　高橋美雪　小涌雅人　小坂彦二　境学　福田善之　本江聡　伊藤博巳　関谷洋紀　36期　的埜真理子　市川友一　市田知己　西浦裕志　広岡欣己　大河哲史　篤田健治　大久保昌孝　柄崎英一　尾山卓　平林朗　37期　東務　古川浩二　畠中美和子　原口裕二　前出興三　越田学　見角基一郎　38期　田中なるみ　山越千鶴　西本圭吾　矢埜裕一　山村真一　吉田陽子　黒瀬博高　広田明浩　前田義人　八木淳　高木陽子　藤根伸也　山内昭範　米田裕吉　西川友佳子　神佐淳　入山孝宏　岸一　関口芳輝　永田健二　西川創　高井雅之　西村亙　橋本直樹　山田義則　石田勇人　徳丸真　松本均　小野江聡美　阿瀬正剛　笹村克久　中橋日出世　39期　倉知桂子　吉田勉　杉浦三千代　若木伸代　太村敬吾　中村章二　大橋須紀　山田美晴　橋俊行　森口憲三　河島陽子　土居世都子　野村晶　東原修身　荒川裕子　紺清純　西尾晃子　西野美和子　橋詰美穂　江尻直樹　浜野純一　安久肇　岡山聡子　金子経央　川尻哲治　中江俊之　奥村匡史　加藤秀紀　綿野敬子　田中義人　安宅潤子　古賀稔章　藤田博　40期　荒木美樹　近藤修　中山雅文　藤塚史人　松田倫　植山英泰　勝二巌　平真樹　藤沢英明　氷見純子　亀沢耕一　鈴木邦彦　田中正俊　敦賀正悦　布村圭子　本多香織　武藤亜紀　吉川昌子　高桜亮　土肥克己　中村太郎　石関聡子　胡摩佳子　大野耕嗣　丸山英一　大杉政人　山田昌代　今井基之　香曽我部泰子　島谷学　高岡由紀子　飯塚健介　坂下欣吾　41期　中川千英子　星野泰司　山本陽一　荒川幸一　黒田雄一　黒木悟　大橋磨紀　小津優子　島田暢子　増江亜佐緒　竹村純也　八田泰斗　宮本純子　奥田裕一　戸水吉信　山本洋司　小高慎太郎　間所顕宣

通　信

3期　湯浅隆夫　9期　橋本英樹　10期　内山(米山)イミ子　渡辺(近藤)良子　11期　上坂悦子　内村雄香　浅地澄枝　菊地一子　久保(伊藤)幸恵　中村(坂本)美代子　内藤(長崎)イサ　12期　坂本アヤ子　南節子　高橋みな子　川村(木村)文子　13期　坂本みどり　梅木(田島)美栄子　14期　内村エチ子　種元隆子　穴田(戸井)博子　15期　吉田和子　角地幾子　橋爪春江　柏田(南本)暁子　尾花ふみ子　吉岡智子　早川(西方)礼子　16期　臼村(泉)清枝　18期　森田春美　山岸(塩村)正美　南雪枝　広瀬美穂　浅井(藤池)文枝　20期　近江直人　21期　徳野ヒロ子　22期　浦嶋敦子　23期　池田誠二　高橋真知子　野里洋子　24期　荒井昭吉　辻ひろみ　岩下チエ子　25期　坂上博　大野清子　松田久美子　26期　米島直子　宮井美代子　28期　上杉喜代美　東直美　笠島外志江　29期　中瀬多佳子　谷口理恵　山口聡子　井沢和栄　30期　長田直美　31期　平沢啓子

『厳霜年報』発刊の記

10年前、還暦を記念に、我々の激動の人生を記録に残そうと云うことで『厳霜烈日』(B6判・402頁、「別冊」152頁)を発行したが、今回は、古稀を迎えるに当って、友人間のコミュニケートのアクセスとして気軽に投稿して貰うクラス会の機関紙でも作ったらどうだろうかと思い提案し、1年間の検討を得て発刊を決めた。

時宜を得たのか、賛同も多く投稿多数、予算を考え、80頁位に纏めようと思っていたところ、とうとう122頁の小冊子となった。

日本書道協会会員である村井又兵衛君に題字を書いて貰い、表紙は版画家としても仲々に腕のたつ坂本仙之介君(共に同期生)の「犀川の夏」の版画で飾った。

第2号は経費を考えるとタブロイド版で我慢しなければならんのでは……と提案してみたところ、「何を云うか、金のことは何とでもなる、心配せずにこのスタイルで出来るだけ続けよう……」という多数の有難い言葉が返って来た。既に数篇の原稿も届いて居り、又次の号には何か書いて送るという人も多く、同期生の交流に役立つ「年報」を作り続けて行く覚悟を新たにした。泉丘高校、県・市立図書館に寄贈してありますので、ご覧戴ければ幸いです。

(一中46期寺内良雄)

第19回一泉桜美会展のご案内
(金沢一中・泉丘卒業生美術展)

と　き＝10月24日(木)～10月29日(火)
ところ＝金沢市香林坊「大和」7階ホール
多勢の皆様のご来場をお待ちいたします。

「一泉文庫」充実に一層のご協力を!!

すでに本紙18号でお知らせしたように、創立100周年記念事業の一環として、卒業生の編著書を一堂に集めた「一泉文庫」の設立を決め、準備を進めています。

文庫には、学術書、小説、随筆、歌集、詩集などジャンルを問わず、卒業生の編著書を収集し、同窓生、在校生ら幅広い読者の閲覧を目指しています。

学校の図書予算の都合もあり、甚だ勝手ですが、各位の御芳志に甘え、ご恵贈賜りたく重ねてお願い申し上げます。

お願い

「同窓生の集い」へのご寄稿は、紙幅の都合もあり、400字以内でご執筆いただき、「一泉」編集室(一泉同窓会事務局内)までお送り下さい。写真を添えていただければ幸甚です。

寄贈本　―平成3年9月末分―

書　　名	著　　者	発　　行	備　考(寄贈者)
病原体を追った人びと	吉村　裕之(一中50期)	北国出版社	
ママ強い子に育てて	吉村　裕之(一中50期)	北国出版社	
冬夜物語	鈴木　雅子編	能登印刷出版部	森田良雄(一中19期)
林徹集	林　哲夫(徹・一中50期)	俳人協会	
闘病二十年	大島登輝夫(一中34期)	洗心書房	
記念樹	大島三日夫(一中34期)	洗心書房	
人生遍路八十年	浦　茂(一中34期)	協和協会出版部	
第四高等学校排球部史	第四高等学校排球部史刊行委員会編	サンワ	福岡二郎(一中57期)
柿と恋	福田　正秋(一中40期)	能登印刷出版部	

―同窓会誌・同期会誌の紹介―

現在、同窓会事務局、一泉100年史編纂室に在庫している同窓会誌・同期会誌は、一中、泉丘、合わせて次の18誌を数えます。

学窓を巣立って幾星霜。これらの会誌が折ごとに同窓の友との旧交をあたため、なつかしい人生の証しとして、編まれてきたのだと思います。

これら以外に、余分をお持ちの方は何とぞご寄贈賜りたく、お願い申し上げます。残部がない場合はコピーさせていただきます。なお、今後出版される場合は、一部以上ご寄贈頂ければ幸甚です。資料室に永久保存します。

期	卒業年	誌名	刊行
一中 20期	大正2年	櫻章魂（一中卒業60周年記念文集）	昭和48年
35期	昭和3年	六十年の憶い出	昭和63年
36期	4年	60年回顧（36期会）	1991年
38期	6年	六桜（卒業50年記念）	1981年
41期	9年	会誌（同期生会）	昭和39年
42期	10年	十桜（第14回全国総会）	昭和60年
46期	14年	厳霜年報（古稀記念）	平成3年
50期	18年	時はゆくよ（入学50周年記念）	平成元年
54・55期	22年	朱木　創刊号	
54期		朱木　第4号	1987年
泉丘 2期	25年	羊と猿の群れから（卒業30周年記念）	1980年
4期	27年	コピー（文集）	
5期	28年	五泉（卒業30周年記念）	1983年
6期	29年	ふくせん（卒業30周年記念）	昭和59年
8期	31年	同窓会名簿・文集	昭和55年
10期	33年	泉寿会（卒業25周年記念誌）	1983年
12期	昭和33年度 22ホーム	彩泉会誌第2号	
化学部ＯＢ会		カオス・創刊号（化学部ＯＢ会誌）	昭和48年

〝一泉同窓会旗・応援旗あります〟

このたび、一泉同窓会旗、金沢一中応援旗、泉丘高校応援旗を新しく製作しましたので、今後一泉同窓会各期で会合をもたれる時などにご利用下さい。一泉同窓会事務局へご連絡頂ければお貸しいたします。

平成3年度

一泉同窓会総会・懇親会のお知らせ

○と　き　10月15日㈫　午後6時開場
○ところ　全日空ホテル3Ｆ（ＪＲ金沢駅前）
○会　費　8,000円（当日会場にていただきます）
☆物故会員慰霊祭
10月15日㈫午後3時より泉丘高校、厳霜碑前にて執行。多数のご参列をお待ちいたします。

あとがき

台風19号が猛威をふるい、各地で大きな被害が伝えられておりますが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。『一泉』第19号をお届けします。

来る平成5年の一泉100周年に向けて、〝宇宙をめざせ　新しい世代のエネルギーに点火を〟を合言葉に、記念事業実行委員会の動きも、日を追って活発になってきました。

中でも、事業推進の基本となる協力金の募集には、その目標達成のため、各委員を中心に多くの方々の並ならぬ努力が続いております。

本紙『一泉』は、同窓生の皆様に〝100周年〟を広くアピールし、記念事業・行事の遂行を側面から支えていこうと、出来るだけ多くの情報掲載を目指しています。

今号は巻頭に、この3月に行われた、一中50期卒業生と在校生の座談会を紹介しました。約半世紀の世代差を越えて、互いのメッセージが熱く伝わってきます。テープ起こしからまとめまで、得能与三郎氏（一中50期）には何かとお手数いただき、ありがとうございました。

「回顧・本多町界隈」の挿絵は、一中本多町校舎の面影を彷彿とさせるものかと思います。一中37期の笠島伍朗氏に何か若い頃のスケッチをお持ちでないかとお聞きしたところ、早急なお願いにも拘らず、わざわざ筆を執って下さいました。厚くお礼申し上げます。

また、名簿委員会の提供により、住所のわからない卒業生名を一挙掲載いたしました。お心当りの方のご協力を重ねてお願い申し上げます。

『一泉』編集室
高川　義一（室長　一中53期）
堀口　　渉（一中45期）　荒木澄子（泉丘3期）
浅香以都子（泉丘10期）　小林弘子（泉丘12期）
題字・坂野雄一（一中54期）